

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願ひ

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

### 腹腔鏡下膵切除術における術前画像解析の有用性評価

#### 1. 研究の対象および研究対象期間

2008年2月1日から2019年7月31日までに腹腔鏡下膵切除術が施行された方

#### 2. 研究目的・方法

目的および方法： 腹腔鏡下膵切除術は、保険収載とともに施行施設・施行症例数の増加を認めています。一方で肝胆膵外科領域における腹腔鏡手術は、従来施行されてきた開腹手術と比し、手術中の視野制限や三次元的視覚の欠如、触覚の欠如などの感覚制限とともに、規定された手術器械挿入位置（腹腔鏡用トロッカー挿入位置）による手術器械操作の制限を伴います。この感覚制限を補完するべく、教室では手術前に施行されたCT・MRI画像から画像解析ワークステーション（SYNAPSE VINCENT・Zaiostation2）を用いて画像解析および再構築画像作成を行い、手術計画の立案・術中画像支援に応用してきました。腹腔鏡下膵臓手術において、膵臓周囲の解剖学的に複雑な血管走行と各症例における解剖学的変異（走行異常）を術前画像解析をもとにシミュレーションし、腫瘍の局在に応じた詳細な手術アプローチの検討に応用することは、安全性・根治性に寄与した手術加療の提供に寄与するものと思われま

す。本研究は腹腔鏡下膵切除術施行症例において、術前画像解析が手術成績に及ぼす有用性を検討することを目的に立案されました。検討において、腹腔鏡下膵切除術施行症例に対しこれまですでに術前に各症例に作成された画像解析結果を使用します。本研究では、腹腔鏡下膵切除術施行症例において、短期成績を診療録より後方視的に検討し評価することを目的とします。

#### 研究期間

医学研究科 人を対象にする研究などに関する倫理委員会承認後、昭和大学病院長の研究実施許可を得てから2020年3月31日まで

#### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：

##### 術前因子

- ・ 年齢
- ・ 性別

- ・合併症疾患
- ・観察開始日（前医を含む）
- ・術前診断
- ・主占拠部位
- ・実施画像検査（（コンピューター断層撮影法（CT）、磁気共鳴断層撮影法（MRI）、超音波内視鏡検査（EUS））
- ・再構築画像所見（腫瘍最大径、腫瘍局在、血管走行）

#### **術中因子**

- ・手術日
- ・施行術式

#### **病理組織診断**

- ・診断名
- ・TNM 分類
- ・リンパ節転移
- ・腫瘍遺残の有無

#### **術後**

- ・術後合併症の有無
- ・術後入院期間
- ・再発の有無
- ・再発確認日

#### **4. お問い合わせ先**

本臨床研究への参加・研究のために自分の情報が利用されることを望まれない場合はデータを使用することはありませんので、いつでも下記の連絡先に本研究へのデータ使用は希望しない旨の意思表示を連絡頂きますよう、お願いいたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属： 昭和大学 消化器一般外科 氏名： 青木武士

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8

研究責任者：

所属	職名	氏名
昭和大学 消化器一般外科	准教授	青木武士
電話番号 03-3784-8541		
E-mail: takejp@med.showa-u.ac.jp		